

第3回大会報告

会長あいさつ

宍戸健夫（大阪健康福祉短期大学）

ここに第3回の幼児教育史学会を開催することができました。

朝早くから参加してくださいましたみなさん、そして、この大会を準備していただき、このようなりっぱな会場を貸してくださいました聖徳大学、同短期大学のみなさんに深く感謝いたします。

この学会は、岩崎次男氏が中心となって続けられてきた近代幼児教育史研究会が母体となつてつくられました。会員は100名をこえ、学会誌も第2号が発刊され、学会の登録資格を得る条件もできてきています。

今回の研究発表も、一層、充実したものになっています。また、シンポジウムは、昨年に引き続き「幼児教育史の到達点とその課題」をとりあげています。昨年は、日本、ドイツ、アメリカの研究でしたが、今年は「東アジア」をとりあげました。幼児教育の歴史の世界史的な展開をつかんで、私たちの研究を深め、発展させてゆきたいと思います。

発表者だけでなく、フロアからも意見をだしていただき、活発な研究討議がおこなわれることを期待いたします。

研究発表

司会 湯川嘉津美（上智大学）／ 大澤裕（聖徳大学短期大学部）

1. 保育教材としての“かるた”
—大正・昭和初期における『幼児の教育』誌の掲載記事を手がかりとして—
池田 邦子（大阪城南女子短期大学）
2. 愛育会による保育施設の運営 —愛育隣保館の実践例より—
西脇 二葉（立教女学院短期大学）
3. 「話し合い」保育が生まれるまで
—その中で明らかになった保育実践の課題について—
木村 和子（名古屋短期大学）
4. 中国における子ども観の歴史研究 —熊秉真『童年憶往—中國孩子的歴史—』再考—
首藤 美香子（お茶の水女子大学）
5. 英国のフレーベル運動 —1900年代初めの活動—
別府 愛（武蔵野音楽大学）

シンポジウム「東アジアにおける幼児教育史研究の到達点とその課題」

司会： 立浪 澄子（長野県短期大学）
企画者： 宍戸 健夫（大阪健康福祉短期大学）
丹羽 孝（名古屋市立大学）
話題提供者： 韓国 林 再澤（釜山大学校）
中国 一見真理子（国立教育政策研究所）
台湾 山田 美香（名古屋市立大学）
指定討論者： 丹羽 孝（名古屋市立大学）